

# 百人一首をおぼえよう！

# うちのひとといっしょに覚えてみよう！

覚え たら○	上(かみ)の句(く)	下(しも)の句(く)
1	あきのたの かりほのいほの とまをあらみ	わがころもでは つゆにぬれつつ
2	はるすぎて なつきにけらし しろたへ(え)の	ころもほすてふ(ちょう) あまのかぐやま
3	あしびきの やまどりのおの しだりおの	ながながしよを ひとりかもねむ(ん)
4	たごのうらに うちいでてみれば しろたへ(え)の	ふじのたかねに ゆきはふりつつ
5	おくやまに もみぢふみわけ なくしかの	こえきとときぞ あきはかなしき
6	かささぎの わたせるはしに おくしもの	しろきをみれば よぞふけにける
7	あまのはら ふりさけみれば かすがなる	みかさのやまに いでしつきかも
8	わがいほは みやこのたつみ しかぞすむ	よをうちやまと 人(ひと)はいふ(う)なり
9	はなのいろは うつりにけりな いたづらに	わがみよにふる ながめせしまに
10	これやこの ゆくもかえるも わかれては	しるもしらぬも あふ(おう)さかのせき
11	わたのはら やそしまかけて こぎいでぬと	ひとにはつげよ あまのつりふね
12	あまつかぜ くものかよひ(い)ち ふきとぢよ	をとめのすがた しばしとどめむ
13	つくばねの みねよりおつる みなのがわ	こひ(い)ぞつもりて ふちとなりぬる
14	みちのくの しのぶもじずり たれゆゑ(え)に	みだれそめにし われならなくに
15	きみがため 春(はる)ののにいでて わかなつむ	わがころもでに ゆきはふりつつ
16	たちわかれ いなばのやまの みねにおふ(う)る	まつとしきかば 今かえりこむ
17	ちはやふる かみよもきかず たつたがわ	からくれないに みずくるとは
18	すみのえの きしによるなみ よるさへ(え)や	ゆめのかよひぢ ひとめよくらむ(ん)
19	なにはがた みじかきあしの ふしのまも	あは(わ)でこのよを すぐしてよとや
20	わびぬれば いまはたおなじ なには(わ)なる	みをつくしても あはむとぞおもふ
21	いまこむと いひ(い)しばかりに ながつきの	ありあけのつきを まちいでつるかな
22	ふくからに あきのくさきの しをるれば	むべやまかぜを あらしといふ(う)らむ
23	つきみれば ちぢにもものこそ かなしけれ	わがみひとつの あきにはあらねど
24	このたびは ぬさもとりあはず たむけやま	もみぢのにしき かみのまにまに
25	なにしおはば あふ(おう)さかやまの さねかずら	ひとにしられで くるよしもがな
26	おぐらやま みねのもみぢば ころもあらば	いまひとたびの みゆきまたなむ(ん)
27	みかのはら わきてながるる いづみがは(わ)	いつみきとてか こひ(い)しかるらむ
28	やまざとは ふゆぞさびしさ まさりける	ひとめもくさも かれぬとおもへ(え)ば
29	ころもあてに おらばやおらむ はつしもの	おきまどは(わ)せる しらぎくのはな
30	ありあけの つれなくみえし わかれより	あかつきばかり うきものはなし
31	あさぼらけ ありあけのつきと みるまでに	よしののさとに ふれるしらゆき
32	やまがは(わ)に かぜのかけたる しがらみは	ながれもあへぬ もみぢなりけり
33	ひさかたの ひかりのどけき はるのひに	しづころなく はなのちるらむ(ん)

34	だれをかも しるひとにせむ たかさごの	まつもむかしの ともならなくに
35	ひとはいさ ころもしらず ふるさとは	はなぞむかしの かににほひ(い) ける
36	なつのは  まだよひ(い) ながら あけぬるを	くものいづくに つきやどるらむ(ん)
37	しらつゆに  かせのふきしく あきののは	つらぬきとめぬ たまぞちりける
38	わすらるる  みをばおもはず ちかひ(い) てし	ひとのいのちの おしくもあるかな
39	あさぢふ(う) の をののしのはら しのぶれど	あまりてなどか 人のこひ(い) しき
40	しのぶれど  いろにいでにけり わがこひ(い) は	ものやおもふと ひとのとふ(う) まで
41	こひ(い) すてふ(ちょう) わがなはまだき たちにけり	ひとしれずこそおもひ(い) そめしか
42	ちぎりきな  かたみにそでを しぼりつつ	すえの松山(まつやま) 波(なみ)こさじとは
43	あひ(い) みての 後(のち)のころに くらぶれば	昔(むかし)はものを思は(わ) ざりけり
44	おふ(う) ことの たえてしなくは なかなか	人をもみをも うらみざらまし
45	あはれとも 言ふ(う) べき人は 思ほえて	みのいたづらに なりぬべきかな
46	ゆらのとを わたるふなびと  かじをたえ	ゆくへ(え) もしらぬ こひ(い)のみちかな
47	やえむぐら しげれる宿(やど)の さびしきに	人こそみえね 秋(あき)はきにけり
48	風(かせ)をいたみ 岩(いわ)うつ波(なみ)の おのれのみ	くだけてものを 思ふ(う) ころかな
49	みかきもり えじのたく火の 夜(よる)は燃(も)え	昼(ひる)はきえつつ 物(もの)をこそおもへ(え)
50	君(きみ)がため をしからざりし いのちさへ(え)	ながくもがなと おもひ(い) けるかな
51	かくとだに えやはいぶきの さしも草(ぐさ)	さしもしらじな 燃(も)ゆる思ひ(い) を
52	明(あ)けぬれば くるものとは 知りながら	なほうらめしき あさぼらけかな
53	なげきつつ ひとりねるよの あくるまは	いかにひさしき ものとかはしる
54	忘(わす)れじの 行(ゆ)く末(すえ)までは  かたければ	けふ(きょう)をかぎりの 命(いのち)ともがな
55	たきの音(おと)は たえて久(ひさ)しく なりぬれど	名(な)こそながれて なほ聞(き)こえけれ
56	あらざらむ このよのほかの おもひ(い) でに	いまひとたびの あふこともがな
57	めぐりあひて みしやそれとも わかぬ間(ま)に	くもがくれにし よは(わ)のつきかな
58	有馬(ありま)やま いなのささはら かせふけば	いでそよ人を 忘(わす)れやは(わ) する
59	やすらはで ねなましものを さよふけて	かたぶくまでの 月(つき)をみしかな
60	おおえやま いくののみちを とおければ	まだふみもみず あまのはしだて
61	いにしへ(え) の ならのみやこの やえざくら	けふこのえに にほひぬるかな
62	夜(よ)をこめて とりのそらねは はかるとも	よにおふ(う) さかの 関(せき)はゆるさじ
63	今(いま)はただ 思(おも)ひ(い)たえなむ とばかりを	人づてならで いふよしもがな
64	あさぼらけ うじのかわぎり たえだえに	あらはれわたる せぜのあじろぎ
65	うらみわび ほさぬそでだに あるものを	恋(こい)にくちなぬ なこそおしけれ
66	もろともに あはれとおもへ(え) やまざくら	花よりほかに 知(し)るひともし
67	春(はる)の夜(よ)の 夢(ゆめ)ばかりなる 手枕(たまくら)に	かいなくたむ立(た)たむ 名こそ惜(お)しけれ
68	心にも あらでうき世(よ)に ながらへば	恋(こい)しかるべき 夜半(よわ)の月(つき)かな

69	嵐(あらし)吹(ふ)く 三室(みむろ)の山の もみぢ葉(ば)は	たつたの川の にしきなりけり
70	さびしさに やどをたちいでて ながむれば	いづくもおなじ 秋(あき)のゆうぐれ
71	ゆうされば かどたのいなば おとづれて	あしのまるやに あきかぜぞふく
72	音(おと)にきく たかしのはまの あだなみは	かけじやそでの ぬれもこそすれ
73	たかさごの おのへ(え)のさくら 咲(さ)きにけり	とやまのかすみ たたずもあらなむ(ん)
74	うかりける ひとをはつせの 山(やま)おろしよ	はげしかれとは 祈(いの)らぬものを
75	ちぎりおきしな させもがつゆを いのちにて	あはれ今年(ことし)の秋(あき)もいぬめり
76	わたのはら こぎいでみれば ひさかたの	くもいにまがふ(う) おきつしらなみ
77	せをはやみ 岩(いわ)にせかるる たきがわの	われてもすえに あはむとぞおもふ(う)
78	あわぢしま かよふちどりの なくこえに	いくよねざめぬ すまのせきもり
79	秋風(あきかぜ)に たなびくもの たえまより	もれいずる月(つき)の かげのさやけさ
80	ながからむ ころもしらず くろかみの	みだれてけさは ものをこそおもへ(え)
81	ほととぎす なきつるかたを ながむれば	ただありあけの 月(つき)ぞのこれる
82	おもひ(い)わび さてもいのちは あるものを	うきにたへぬは なみだなりけり
83	よのなかよ みちこそなけれ おもひ(い)いる	やまのおくにもしかぞなくなる
84	ながらえば またこのごろや しのばれむ	うしとみしよぞ いまはこひ(い)しき
85	よもすがら ものおもふ(う)ころは あげやらぬ	ねやのひまさへ(え) つれなかりけり
86	なげけとて 月(つき)やはものを おもはする	かこちがおなる わがなみだかな
87	むらさめの つゆもまだひ(い)ぬ まきのはに	きりたちのぼる あきのゆうぐれ
88	なにはえの あしのかりねの ひとよゆゑ	みをつくしても こひ(い)わたるべき
89	たまのをよ たえなばたえね ながらえば	しのぶることの よわりもぞする
90	みせばやな をじまのあまの そでだにも	ぬれにぞぬれし 色(いろ)はかは(わ)らず
91	きりぎりす なくやしもよの さむしろの	ころもかたしき ひとりかもねむ
92	わがそでは しほひ(い)にみえぬ おきのいしの	ひとこそしらね かわくまもなし
93	よのなかは つねにもがな なぎさこぐ	あまのこぶねの つなでかなしも
94	みよしのの やまのあきかぜ さよふけて	ふるさとさむく ころもうつなり
95	おほ(う)けなく うきよのたみに おほふかな	わがたつそまに すみぞめのそで
96	はなさそふ あらしのにわの ゆきならで	ふりゆくものは わがみなりけり
97	こぬひとを まつほのうらの ゆうなぎに	やくやもしほの みもこがれつつ
98	かぜそよぐ ならのおがわの ゆうぐれは	みそぎぞなつの しるしなりける
99	人もをし 人もうらめし あぢきなく	よをおもふ(う)ゆゑ(え)に ものおもふ(う)みは
100	もしきや ふるきのきばの しのぶにも	なほあまりある むかしなりけり

